

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 18 日現在

機関番号：13101  
 研究種目：基盤研究(B)  
 研究期間：2008～2011  
 課題番号：20401025  
 研究課題名(和文)戦時期南満州鉄道沿線の社会変容に関する史料調査研究  
 研究課題名(英文)Historical materials research about the social transformation  
 along the wartime period of South Manchurian Railroad  
 研究代表者  
 芳井研一(YOSHII KENICHI)  
 新潟大学・人文社会・教育科学系・教授  
 研究者番号：90092634

研究分野：人文学  
 科研費の分科・細目：史学・史学一般  
 キーワード：南満州鉄道・社会変容・人口移動・資料調査・東北アジア

## 1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、遼寧省档案馆・中国社会科学院近代史研究所・北京大学歴史学部・天津社会科学院日本研究所等のスタッフの協力を得て、日中戦争期とアジア太平洋戦争期の南満州鉄道沿線の社会変容に関する資料調査研究を行うことを目的とする。

(2) 本研究では戦時期南満州鉄道沿線の社会変容をめぐって諸資料を発掘しながら総合的な資料目録を作成する。天津市図書館や天津市档案馆等の調査を実施する。さらに、遼寧省档案馆所蔵の満鉄資料の調査を実施する。

(3) このような調査研究を踏まえて、研究課題に即した総合目録を作成し、印刷物と Web 上で公開する。同時に分担研究者の協業により収集資料の検討と分析を進める。三年次目には合同ワークショップを開催する。さらに最終年度には、これらの成果を踏まえた国際シンポジウムを開催する。社会変容に焦点を絞ることにより、密度の高い新たな共同研究の成果を公表する予定である。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 2008 年 9 月には中国瀋陽市で遼寧省档案馆所蔵文書の調査を実施した。研究課題に関する所蔵資料について閲覧し、とくに戦時期の南満州鉄道沿線の社会変容に関する資料を集中的に調査し、必要資料を複写した。なお京都大学人文科学研究所が所蔵している関連資料についても 11 月に調査を実施し、必要資料を複写した。

同年 10 月には韓国・漢陽大学と共同で運営された国際学術セミナー「境界をめぐる諸側面」の開催を支援した。また 2009 年 2 月には新潟大学人文学部と同環東アジア研究センター主催の国際ワークショップ「近代中国と満

鉄 満鉄史研究の現状と展望」の開催を支援し、本研究課題に関連した研究報告を行った。これらの成果は『環東アジア研究センター年報』4号に掲載した。

(2) 2009 年 9 月には、中国長春市で吉林省社会科学院満鉄資料館所蔵文書の調査を実施した。研究課題に関する所蔵資料について閲覧した。戦時期の南満州鉄道沿線の社会変容に関する資料を集中的に調査した。そのうち戦時期のものを含む南満州鉄道株式会社の帝国議会説明資料・別冊については、収集資料をもとに編集作業を行い、本年度末に不二出版より資料集として刊行した。

同年 11 月には、新潟大学において開かれた国際ワークショップ「東北アジアにおける社会的な生活基盤の形成」の開催を支援し、本研究課題に関連した研究報告を本科学研究費のメンバーが行った。これらの成果は『環東アジア研究センター年報』5号と『環日本海研究年報』17号に掲載した。

(3) 2010 年 9 月と 2011 年 3 月に、中国長春市で吉林省社会科学院満鉄資料館所蔵文書の調査を実施した。研究課題に関する所蔵資料について閲覧した。戦時期の南満州鉄道沿線の社会変容に関する資料を集中的に調査した。当館にも一部が所蔵されていた戦時期の南満州鉄道株式会社東京支社調査室の東京時事資料月報について編集作業を行い、本年度末に不二出版より資料集として刊行した。また 9 月には、大連大学・遼寧師範大学・吉林大学において、関連資料調査を実施した。

11 月には、新潟大学において開かれた国際ワークショップ「日中戦争の深層」の開催を支援し、本研究課題に関連した研究報告を本科学研究費のメンバー 3 人が行った。これらの成果は『環東アジア研究センター年報』6号と『環日本海研究年報』18号に掲載した。

### 3. 現在までの達成度

当初の計画通りに進行

当初計画通り、遼寧省档案馆・中国社会科学院近代史研究所・北京大学歴史学部、それに加え吉林省社会科学院満鉄資料館等のスタッフの協力を得て、ほぼ戦時期南満州鉄道沿線の社会変容に関する資料調査研究を順調に進めつつある。

第一に、中国社会科学院近代史研究所の協力により、同研究所所蔵の満鉄総務部調査課時局資料総合班作成の「満州事变日誌記録」のほぼ全部を全三冊で翻刻・公表することができた。同資料には満鉄沿線住民の変転する状況が克明に記されている。

第二に、吉林省社会科学院満鉄資料館の協力を得て、当館所蔵の「南満州鉄道株式会社帝国議会説明資料・別冊」を復刻・公表できた。同別冊には、より機密性の高い情報が盛り込まれており、満鉄沿線の状況に関する資料が含まれている。

第三に、戦時期南満州鉄道調査部の調査状況について、これまで重要であるが閲覧がしにくかった東京支社調査室の「東京時事資料月報」を復刻・公表することができた。

第四に、以上のほか遼寧省档案馆をはじめとする資料館において様々の貴重資料の収集に努め、それらに基づいた個別研究を順次公表した。

第五に、期間中に本科研メンバーが主力となって4つの国際シンポジウム・ワークショップを支援・開催した。とくに2009年度の「東北アジアにおける社会的な生活基盤の形成」と2010年度の「日中戦争の深層」においては、本科研の研究課題にメンバーと共に各国の研究者による報告もあり、有意義な成果が得られた。それらの成果は、『環東アジア研究センター年報』と『環日本海研究年報』の各号に公表した。

当初計画の修正点

ただいくつかの点で、当初の計画通りに進まなかったこともある。第一は、天津市档案馆が所蔵しているとされる満鉄資料や日本軍関係資料の閲覧について、現地の方々のご尽力等を含めて折衝したが、着手できなかったことである。省レベルの档案馆とは違い、その閲覧に大きな障害があったことは残念である。

第二に、作成した目録や資料等について随時Web上に公開しようとしたが、エクセルに収録した容量が大きすぎて技術的に困難だったことである。幸い貴重資料については復刻・翻刻により公開することが出来た。それ以外についても、何らかの手段を講じて順次公開する予定である。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) ワークショップ等の開催

本年度は最終年度なので、「戦時期南満州鉄道沿線の社会変容」に焦点化したワークショップ等を開催する予定である。

(2) 成果のとりまとめと公表

「戦時期満鉄沿線の社会変容」「内モンゴルを中心とする社会変容」「満鉄沿線の産業基盤と社会変容」「満州交通の変遷からみた社会変容」「華北の社会変容」についてのこれまでの研究を整理・総括する。

(3) 研究課題の発展的深化

これまでの成果を基盤として、文書とともに映像、遺跡、聞き書きなどを含む大量の南満州・中東両鉄道関係の資料や目録等を総合的に検証し、未公開資料をも含めたデータを整理・公開する。

また2010年度に開催した国際ワークショップ「日中戦争の深層」で示された課題を受けとめ発展させるために、組織的な調査と研究を中国側と協同して進める。

### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計23件)

芳井研一、国際情勢の変転をめぐる満鉄調査部の現状分析、環日本海研究年報、18号、92-113、2011、有。

塚瀬進、日中戦争を契機とする満州国の政策変化-商工業政策を中心に-、環東アジア研究センター年報、6号、61-66、2011、有。

小林元裕、華北分離工作期北京の日本人居留民、環日本海研究年報、18号、44-50、2011、有。

芳井研一、東北アジア地域の社会的な生活基盤の形成、環東アジア研究センター年報、5号、148-164、2010、有。

芳井研一、柳条湖事件直後の現地社会と住民状況、環日本海研究年報、16号、104-112、2009、有。

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計6件)

芳井研一復刻・解説、南満州鉄道株式会社東京支社調査室 東京時事資料月報、不二出版、1-321、2011。

芳井研一、柳条湖事件への道、高志書院、1-165、2010。

芳井研一復刻・解説、南満州鉄道株式会社 帝国議会説明資料・別冊、不二出版、1-207、2010。

芳井研一翻刻・解説、南満州鉄道株式会社調査課時局資料総合班 満州事变日誌記録、全三冊、不二出版、2009。